

「み言葉を聴こう」

(マルコによる福音書 13:14-23)

今日の旧約聖書、使徒書、福音書は共通して「終末」について語っています。終末というと何だか怖い、よく分からない、と感じる方もおられるかもしれません。たしかに終末は審判の時とされ、今日の福音書で語られる終末も非常に恐ろしいものです。また終末はいつ訪れるかも分かりません。しかし確かなことは、終末とは救いの時であるということです。それは大天使ミカエルが立つ時であり、「来るべき方」主イエスが来られる時だと今日のみ言葉は伝えています。何よりもその日は、主イエスが約束してくださった日ですから、終末はわたしたちに将来の希望を与えてくれます。

今日の福音書の最後に主イエスは「一切の事を前もって言うておく。だから、あなたがたは気をつけていなさい。」と言われます。イエスさまは終末に何が起こるのか、何に気をつけなければならないのか教えてくださっているのです。そのイエスさまのみ言葉から離れず、今を生きるなら、その先に終末の喜びが用意されています。

み言葉はわたしたちにも語られています。主イエスが 2,000 年前に前もって語ってくださったことが、今を生きるわたしたちのことも導いてくださるのです。教会の将来や信仰の歩みにおける不安の中で、偽メシアや偽預言者の言葉、さまざまな声に右往左往するのではなく、主イエスのみ言葉を聴き、今を「気をつけて」生きることを、主イエスはわたしたちに求めています。気をつけて、主イエスのみ言葉に聴きながら今を生きるところに、必ず救いは実現します。